開校記念祭

好評裡に終る

川内平野の豊かな黄金の穂波を撫で、除ろに訪づれる仲秋の爽風にさそはれて、平和の使徒一千九百の若き血を湧き立たせながら、堂々絢爛たる繪卷物を展開した。歴史的本校開校記念祭は、去る十月十七日より多数の來賓、先輩、川内市民、隣町村諸學校、團体、並に心の參加者幾千を加へて壯大な記念式典に引續き、大運動會、展覽會、幕を皮切りに天運恙なく、十八日藝能大會、十九日競技大會―以上三日間一部、二部相携へて男女共學の前奏を奏でる和やかなリズムに乘つて、豪華なプログラムは順調に而も好評裏にゴールインをなした。以下は記者が拾つた記念祭の斷片である。

＝大運動會＝

密雲低く垂れたグラウンドに記念式典の舞台は大きく回轉して、川高バンドの演奏で堂々入場式、百米決勝より、紅白綠の覇を競ふ美の祭典の火蓋は切つて落され、本校短距離界のホープ山本君が百を11秒8、少年部で併中の上戸君が12秒2の快記録の續出を始め、積極的な趣向を盛つた新進奇抜な假装行列の出現は、十重、二十重に圍む觀衆の拍手を浴びて三色對抗戰は俄然白熱化。本大會のラーストを飾る四百八百繼走ではスタンドは總立ちの壯觀を呈し遂に勝運の矢は二位の綠を拔くこと數十点の好成績を以て白群が射當て、午後四時半學園永劫の多幸を約して記念祭の第一頁を靜かに閉じた。

＝藝能大會＝

十八日午前八時より市民館で午前中本校生徒、午後の部を生徒父兄、夜間の部を一般市民に公開した藝能大會は、建設的抱負を万堂に渇破した弁論に。日頃の撓まざる研鑽の成果を、かぼそき弦に、或はキイーに托して奏でる妙なるメロディーは理想郷建設への聖らなる響で流れ、眞情に徹した演劇部員の熱情迸る演技ぶりは、觀る者をして涙をそゝらしめるものがあつた。

＝競技大會＝

十九日午前八時半より一齊に試合を開始した競技大會は、ラグビー、蹴球に出水高校ベストチームを招待、各競技場とも、職員、先輩、在校生交へて熱戰を展開した當日の記録は次の通りであつた。

（◎印は優勝者、チーム）

排球 ◎三色對抗 ―[illegible] 綠

ソフトボール [illegible]【十一】[illegible]

ラグビー (川)6―12(出)

蹴球 (川)1―0(出)

[illegible]

○〃 〃 ―【二】綠

籠球 ○〃 〃 ―【十】綠

○〃 〃 ―【三】綠

○學校對抗【一】 三ノ三

庭球 ○個人戰【一】 川添 外園

○個人戰【二】 西尾 田

卓球 ○個人戰【一】 (青)藤本

〃 (少)上戸

【二】 小吹

角力 ○個人戰 (青)吉田

【二】 (少)福山

大田總務委員長談

川高史の第一頁とも言ふべき開校記念祭がかくも空前の收穫を得たことは、知識人としての校友諸兄姉のよりよき事態認識、眞摯な精進の必然的結果であり、蔭に父兄、先輩、有志諸賢の心からなる御援助の賜でありますと、因より本祭が知と、美と、義の殿堂に一石を投ぜんとするにあつた事は言ふ迄もありませんが、取材して論ずるに値しない小なる市井の蛙聲に拘泥する程となく、あの蒼穹に暖い腕を腕とで感知したストームの鼓動を高らかに踏んだステップのゆかしき響の感激を肉的貴重なモニユーメントとして明日の理想郷活劇に猶一層の努力を誓ひつゝ、麗はしくも雄々しく羽ばたきを續けられる樣切望致します。

平和臺での感想

大迫佐吉

大會全体の氣分としては、以前の大會よりずつと和やかになつた。しかし、その和やかな氣分の中にも眞摯敢闘平和國家建設えの意慾旺んなるを見て頼母しく心強く思ふ。本來の正しい平和友好の目的に、立ちかへつたかの樣で嬉しい。戰爭仲邪道にば入りかけてゐたスポーツが、戰後此の種大會に初めて揭げられた大會旗、君が代の吹奏は、吾々日本人としての感激絶大なるものがあつた。又競技場の諸施設をあれ程に造り上げた福岡縣の努力に對しては敬服の他ない。今後、如何に活用するか相當經營維持に意を用ひねばなるまいが、スポーツ團体の活用利用を期待する。福岡縣のかような施設を見て、鹿兒島縣のスポーツ施設の貧弱なのを痛感する。

競技記錄、技術共に向上の一路を辿つてゐる。後四五年もしたら、大したものとなろう。ヘルシンキの大會目指して頑張る若人の上に幸あれと祈る。戰時中のブランクを取戻すべく競技場で頑張り、後輩が出るまでのつなぎをしてゐると云ふ、悲愴な決心の先輩を見て涙ぐましく思う。運動の先輩が未だ活躍もしてゐるし、慈愛をもつて懇切丁寧、後輩の指導に當つてゐるのは非常にうるわしいものだ。本縣選手の活躍の狀況は、新聞、ラヂオ等で承知のことゝ思ふが、充分實力を發揮してゐることだし、今後の努力精進に依つて、より強い力を養うことが肝要だらう。

（一部教官）

公演の反省

演劇部座談會

去る日の、市民館公演に初回にかゝはらず素晴しい熱演ぶりを見せて、觀衆の感激と絶讚を浴びた演劇部では十月二十六日四時より川高新聞主催の反省會をひらき、指導者、嘉東鴻吉先生を中心に、寺田、橋口兩教官を交へて色々と談合、更に明日への精進を誓つて午後六時散會した。

よろん

愛甲君を反駁す

愛甲君の言ふ勅語の大精神とは何を指すのであらうか。

教育勅語こそが日本の軍國主義の基礎的事項であり封建的紐に國民をしばり國民をして今次大戰に驅り立たしめ且今日の悲慘な狀態に追ひ込んだ元兇である事は全世界の人民が悉く指摘している所である。其れ故にこそ日本政府は國內外の人民の批判の前にこれを廢しせざるを得なくなつたではないか。

愛甲君はあの美字麗句に眩惑されて其の本質を御存知ないらしい。

世界は滔々として民主主義の方向に流れている。民主主義こそが世界平和を確立し全世界人類を發展せしめるものである事は愛甲君とても知らない筈はあるまい。

「克く忠に克く孝に」といふ事の爲に「又一旦緩急あれば義勇公に奉ずる」といふ事の爲に如何に多くの國內外の人民青年婦女子が犧牲にされ苦しめられ泣かされ日の目の無い生活をさせられた事か何を以つて「博愛衆に及ぼす」といふのであらうか。

學を修め業を習ふ事は軍國主義封建主義強化の爲の學業ではなかつたか。

又彼は知つたかぶりに言ふ「赤色攻勢の附目である」と。

愛甲君にお尋ねしたい赤色攻勢とは果して何か。

愛甲君の言ふ世界平和と民族の獨立と祖國の再建も一大スローガンとして教育勅語に汚毒された反動家達から祖國日本の獨立を守り拔く爲にあらゆる苦難の中に敢然斗つている人達は果して誰であらうか。

幾多の實例が其れを實證しているではないか。

世界は前進している。教育の理念は上から與へられ押へつけられるものではなく吾々自身が造るべきものである。教育勅語を廢しせしめたのは民主主義に目ざめた人民の力である。

（一部高崎重滿）

※勅語の精神について、この問題は投稿數篇あり。これをもつて打切ります。（編集）

立聞一片

去る十月行はれた開校記念祭の折に、父兄本校生の立聞の一片を參考までに拾つてみる。

父兄側としては、始めての合併運動會故に、あまり浮き〳〵し過ぎはせぬか、もう少し學生は學生らしく眞面目で從順な態度が欲しいと思う。或る一部生徒「始めの中は珍しかつたが近頃はうるさくなつた。もう少し二部の人は、はき〳〵動いて欲しい。」

或る二部生徒談「男尊女卑の弊害がまだ拔けきらないのも無理はないが、男の人はあまり我儘すぎる。男も女も長短相補つて協力して行くべきだ。」

二部K教官の希望「我々はすべての態度に節度秩序がなければならない。禮で始り禮で終るのが正しき友としての態度」であると思う。（二部KU生）

西薩高校自治會連合

本校が中心となり、川内市高、伊集院高、市來高、宮之城高、串木野高、樋脇高、入來高、大村高が參加する西薩高校自治會連合が十月十二日發足した。結成の契機は、地區高校生徒の自覺と良心と自由意志に基いて、相互の親睦と團結を圖り、各學校自治會相互の運營に關して、連絡協議し、建全なる自治會發展に努め、學生生活の向上に貢献するのを目的とし、又縣當局並に、占領軍軍政官の勸告もあつた爲に結成されたのである。本校關係役員左の通り

會長。中央委員長　菊池史憲

書記長　田中幸三

中央委員長　濱田辰義

中央委員　澁谷郁子

渉外委員　時吉ヤス

推進委員書記　德重俊子

尚此の會の會則は、川高一部自治會會則と大略同じである。

▲二部自治會便り▲

春光うらゝかな去る五月　川高二部自治會は發足し、次來澁谷會長のもとに學園民主化を目指して、活動し今日に至つたが、受驗準備の爲め改選する事となり、去る二月左記の通り、決定した。

會長　德重俊子

副會長　村松民子

副會長　橋口良子

會長談

一旦、會長になつた以上、會員の皆樣の公僕として、皆樣の御指導と御協力のもとに、明朗で建全なる學園の民主化に努力研鑽いたしたい。

性病科（性病指定醫）
皮膚科
泌尿器科
外科
鮫島病院
川内市大小路町裁判所通
電話二〇三番

小兒科
內科
國分醫院
川内市向田町上町
電話二二六番

內科　小兒科
レントゲン科
田原醫院
川内市大小路町
電話一三九番

牛馬ねり藥
發賣元
吉武家畜藥院
川内市堀田通

麥作耕耘には
西田式二段耕犂
栗原式製繩機
國益式藁打機
岩元農機具商會
大小路町寺通
電話一二〇番

農機具なら三共農機へ
田所式穀繩機
利川式麥土入機
深見式溝浚機
大量着荷
三共農機株式會社
川内市大小路町
電話二〇四〇番

三洋水産株式會社
專務取締役　石原繁
川内市向田町二四一
川内商工會館內
電話二二七番

㊂
太榮水産株式會社
川内支店
川内市向田町渡唐口